

聖使命会員取扱者となって、“すべての人々を幸福に導く聖使命会”に縁ある方々をおつなげしましょう！

聖使命よろこびの集い

〈取扱者研修会〉

日 時：令和8年 **1** 月 **20** 日（火）9:55～11:50

ご 指 導：三浦 晃太郎 教化部長 他

開催携帯：生長の家千葉県教化部（大拝殿）で開催
Zoomによる配信も行います。

[ZoomID：851 7046 5395／パスワード：0531]

テキスト：『新版 菩薩は何を為すべきか』

『生長の家 創刊号〈復刻版〉』

「聖使命会員（聖使命菩薩）を拡大して、千葉教区の
光明化運動を一步前進させよう」（聖使命会員の手引き）

参 加 対 象：聖使命会費取扱者

奉 納 金：300円以上随意（昼食代込み）

〈主なプログラム〉

- ・事例発表「聖使命会費取扱者としての喜び」（相愛会・白鳩会）
- ・講話「聖使命会費取扱者を讃えて」……三浦晃太郎 教化部長
- ・聖使命会員の喜びの輪を広げよう（組織の具体的な取り組み内容について）
- ・決意発表（相愛会・白鳩会）

「聖使命会員となるよろこび」

宗教というものは、決して病氣治しや個人の繁栄^{はんえい}のために利用されるべきものではありません。ただ本当のおかげ^{おかげ}があらわれるのは、まごころの信仰と報恩感謝の心があらわれたとき、その付属^{ふぞく}として付け加えられたものであって丁度人間^{ちやうど}の影が地上にうつっているような、そういう影^{かげ}に他ならないのであります。ですから信仰を手段として利用して、安あがりのおかげをつかみ病氣などを治してもらおうとか、少しだけ寄附^{きふ}をして置いて大いに事業を発展させてもらおうとかと、さもしい事を考えることは全く間違っているのであります。私達の寄附^{きふ}や献金^{けんきん}は、そのようなこととは全然ことなつたところの純粋な菩薩行であり、一人でも多くの人々を救いたいという慈悲^{じひ}の発露^{はつろ}でありますから、そこに自からその功德^{おのず}はあまねくゆきわたらざるところなく、一門家族の悪業^{あくごう}すらも光^おに遭うた暗闇^{くらやみ}のように消滅^{しょうめつ}してしまうのであります。（後略）

『新版 菩薩は何を為すべきか』谷口雅春先生著・谷口清超先生著 128頁より